

西サハラ

自由に平和な祖国へ帰れる日を 夢見ている

ファトマ・ブラーヒム さん

アルジェリア・チンドウフのサハラウィ難民キャンプに生まれ育つ。オラン第一大学人文・イスラーム学部メディア・コミュニケーション学科卒業、同大学院視聴覚学専攻修士課程修了。難民キャンプでイタリアの開発NGOに勤務しながら、西サハラ学生連合(UESARIO)外交委員会アフリカ担当として活動している。モロッコが築いた分離壁「砂の壁」に抗議するグループ「壁に向かって叫ぶ(Shout against the Wall)」のメンバー。アラビア語、スペイン語、英語を使える。好きなことは読書、外国語、旅行。新しいことを学び、体験したい。

アフリカ最後の植民地 西サハラとは？

西サハラは、人口567,000人、面積252,120平方キロメートル(日本の約70%)のモロッコの南に位置する砂漠が多い地域です。西サハラ「サハラ・アラブ民主共和国」は、未だに国連の加盟国ではありませんが、AUアフリカ連合には国家として加盟しています。西サハラではサッカーが最も人気のスポーツとなっており、1989年にサハラサッカー連盟が創設されました。サッカー西サハラ代表は国際サッカー連盟(FIFA)には加盟していませんが2003年より「FIFA非加盟協会会議」(Non-FIFA-Board)に加盟しています。

西サハラは1975年、スペインからの独立過程でモロッコに侵略され、以来、国土の80%がモロッコ占領下にあります。国連は1991年に住民投票の実施を決めました。モロッコのサボタージュと大国の思惑によって実現していません。

西サハラには鉱物資源や水産資源が豊富です。

日本は水産物のタコなどに関してモロッコからの最大の輸入国であり、日本が輸入している冷凍タコの約7割はモロッコから来ています。これらには西サハラの水域からのタコも含まれていますが、店頭に並んでいるタコのパッケージには「西サハラ産」ではなく、「モロッコ産」としか表記されていません。



通訳 松野明久さん

所属:西サハラ友の会

熊本県天草出身。2017年に西サハラに行き、西サハラ友の会の立ち上げに参加する。1980年代から東ティモール支援運動に関わり、1999年東ティモールで住民投票を行った国連ミッションに参加。その後、東ティモール受容真実和解委員会のアドバイザーを務める。大阪大学名誉教授。専門は国際政治、紛争研究。西サハラの他に、インドネシア、東ティモール、タイ、フィリピン、パレスチナの紛争を研究。

- 1 アルジェリアにあるサハラウィの難民キャンプ。1975年から国際機関等の支援に頼って暮らす。キャンプの人口は約17万人。撮影・岩崎有一氏、2019年。
- 2 サハラ・アラブ民主共和国宣言 30周年 記念式典の駱駝隊。右は女性用の鞍

サハラウィ

西サハラの人びと

アルジェリアにある難民キャンプに拠点を置くサハラウィ(西サハラの人びと)は「サハラ・アラブ民主共和国」の樹立を宣言し、モロッコの占領下に暮らすサハラウィは激しい弾圧を受けながらも非暴力の抵抗運動を続けています。アルジェリアの難民キャンプには約17万人が暮らし、住民投票を経て、解放された祖国に帰れる日を待ち望んでいます。そのためには世界の市民の支援の声が必要です。

西サハラ問題について詳しくお知りになりたい方は、以下の西サハラ友の会のウェブサイトをご覧ください。



<https://fwsjp.org/>

主催：福岡パレスチナの手
協力：西サハラ友の会

後援：Jnet フェアトレードセンター / natural natural グループ
お問い合わせ：菊川千賀子 福岡市東区若宮 2-5-24 携帯：090-7157-1873